

林田陣屋跡発掘調査概要

資料提供日

令和 8 年(2026 年)3 月 11 日(水曜日)

調査の概括事項

調 査 名：林田陣屋跡発掘調査

調査の内容：石積み、街路ほか

調 査 期 間：令和 8 年 3 月 4 日（水）～同月中旬予定

調 査 原 因：遺跡の確認

調 査 面 積：54 m²

遺跡の概要

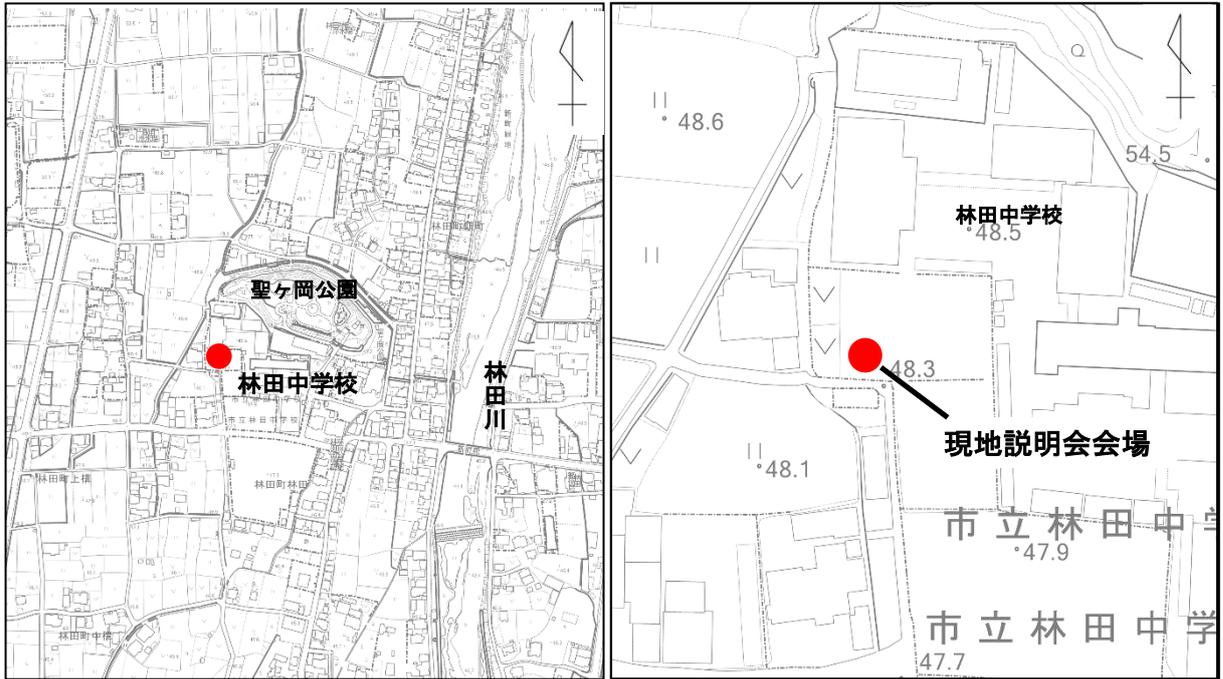
林田藩は、元和 3 年（1617 年）に摂津 1 万石の大名であった建部政長が播磨国揖東郡 1 万石に転封になり、林田構村の聖岡に陣屋を構築したことに始まる。以降、建部氏の時代が 10 代続き、明治維新を迎えた。林田陣屋は、聖岡の藩主屋敷を中心に、丘と周りの平地に堀と土塁をめぐるせ、評定所や藩蔵など藩の施設のほか武家屋敷や町家などで構成されていた。中心部だった場所は、現在、聖ヶ岡公園や林田中学校、林田公民館などに姿を変えているが、7 代藩主政賢が建てた藩校敬業館の講堂は県下唯一の藩校遺構として市指定文化財に指定されている。

調査の概要

今回の調査では、陣屋の西門の想定地を調査し、江戸時代の石積みや街路などが姿を現した。

- ・石積み① 西側で確認した割石を 2 段程度積んでいる。高さ 0.3m、検出延長 1.6m を測る。江戸時代の絵図では陣屋内と外を区切る塀が描かれている。
- ・石積み② 東側で確認した割石を 2 段程度積んでいる。高さ 0.35m、検出延長 1m を測る。江戸時代の絵図では吉田権太夫の屋敷の塀が描かれている。
- ・街路 石積み①と②に挟まれた幅 2.5m、検出延長 1.6mを測る街路。絵図に描かれ、現在も残る調査区南側の街路と幅・方向が一致する。

今回の調査では、西門東側の街路と陣屋西方の境界とみられる石積みが確認された。街路は南側の道路の延長にあたり、現在も陣屋の区割りが踏襲されていたことが明らかとなった。これまで詳細が明らかになっていなかった林田陣屋跡で遺構が確認されたのは初めてのことで、陣屋内部の様相を知るうえで貴重な成果を得ることができた。



林田陣屋跡発掘調査地



林田陣屋絵図 部分 (『新修 姫路市史』第10巻より引用・加筆修正)



調査区から聖ヶ岡を望む（南西から）



石積み①（西から）



石積み②（西から）



街路と南側の道路（北から）